

会議録

1 附属機関の名称

犬山市史編さん委員会

2 開催日時

令和 6 年 7 月 26 日（金） 午後 1 時 30 分から午後 2 時 45 分まで

3 開催場所

犬山市役所 2 階 201・202 会議室

4 出席した者の氏名

（1）委員

羽賀祥二、岡本耕平、赤塚次郎、中村真咲

（2）執行機関

（歴史まちづくり課）加藤課長、小川課長補佐、市野統括主査、鈴木主査補、河合

5 報告

（1）令和 6 年度の活動について

6 議題

（1）資料編の構成・内容について

（2）資料編の頒布について

7 傍聴人の数

0 人

8 内容

1. 開会（羽賀委員長挨拶）

2. 報告

（1）令和 6 年度の活動について

事務局：教育長職務代理者の交代により、7 月に渡邊智治氏に編さん委員を委嘱した。

3. 議題

（1）資料編の構成・内容について

事務局：原稿の調整を行い、直近では合計 994.5 頁となった。A5 判 1,000 頁の設計には収まったが、印刷用レイアウトを行うと少し頁が増えそう。それは初校で調整する。また、部ごと

の章番号を通番（第Ⅰ部＝第1～13章、第Ⅱ部＝第14～17章）に、節ごとの資料番号を章ごとの通番（章番号-資料番号）に変更して、引用・参照を示しやすくする。掲載予定資料がほぼ固まり、資料タイトルや出典名の表記をなるべく統一できるよう編集。今後、関係各所への確認や資料の使用申請等を進めていく。

委員長：2部17章の構成となった。資料総数は1,000点近くあり、目次の頁数も相当ある。資料タイトルは「〇〇が～を…する」という形になるべく統一し、市長以外の個人名は章・節・項・資料タイトルから外す方針とした。ばらつきは今後調整する。巻末の参考資料・公職者名一覧は、頁数の兼ね合いもあり、歴代の市長・議長・名誉市民に限るものとした。資料としては新聞記事、市広報紙、市議会会議録が多い。新聞記事の地方版は原紙が探しにくい場合もある。出典確認、校正作業をどう進めるか事務局と相談する。

委員：資料形態の「画像」とは、具体的にはどのような形式か。

事務局：JPEGが多い。一部、紙資料や紙焼き写真をスキャンして取り込んだものもある。

委員：画像にはさまざまな媒体と保存形式がある。各委員が簡易的に取り込んだ画像では解像度の差が激しいだろう。できるだけ撮影やスキャンの元となった原資料も収集する方がよい。スキャンや画像加工も、注意しないと劣化の原因になる。統一した適切な方法でやらないといけない。将来的にはそれらの資料データが貴重な財産になっていく。

事務局：原資料を提出した委員もいるし、データの最低限の解像度は示している。印刷物としてあまりにも低画質にならないよう注意はしている。

事務局：印刷製本業者から見本組が出た。細かい修正中である。Word原稿では本文が10ptだが、印刷はもう少し小さい14Q（級）で組むことになる。明朝体を基調に適宜ゴシック体を使い、フルカラー印刷を生かして読みやすくする。「資料目次」にどの要素まで盛り込むかは検討中。巻頭の口絵（8頁分）は、まずは事務局案を示すことになっている。

委員長：見本組にあるように、章タイトル周り、写真資料のほか、表組みにも色を付けてフルカラー印刷を生かす。節冒頭の解説文は1頁に収まるよう調整する。

委員：解説文に入っているゴシック体の番号は脚注か。少し目立ちすぎる印象だ。

事務局：脚注ではなく該当の資料番号である。最終的にはもう少し目立たなくなる予定。

委員長：ルビはどう振るか。固有名詞にも振った方がよいのでは。

事務局：常用外の漢字、特殊な読みは節の初出に振る予定。固有名詞（人名、地名等）は解説文中のみ振る。その他、原資料にルビがあるものは振る。

事務局：口絵について。専門部会では①NPO編集時代の市広報紙表紙、②平成初頭と末期の航空写真等の案が出た。②は、平成年間での顕著な変化が見られなかったため、部会長（委員長）と相談のうえ採用を見送った。その他、市民から寄せられた写真を含めつつ、ハコモノの紹介に偏らず、年代や地域を分散させて掲載できるよう配慮した。本日晒した案は、写真の入れ替え、キャプションを含めて今後も修正していく。

委員長：イベント時の人物写真が少し多いなという印象。「日本ライン下り」はもう少し撮影場所や構図を検討した方がよい。市広報の表紙は経年順に並べてほしい。

事務局：本文の補足として付録DVDを検討していたが、改めて各課で所蔵中の映像資料を確認したところ、令和に撮影されたもの、他媒体（YouTube、報告書の付録DVD等）で公開されているもの、VHS等で規格が古いものなど今回の仕様での収録には適しておらず、難しいと判断した。『資料編』は付録DVDなしと考えており、専門部会でも反対意見はなかった。

収集資料・情報のデジタル化は市史編さん事業後の課題である。

委員：市史に付録 DVD を付けるかどうかはあくまでもオプション。平成市史の編さん作業として動画資料は不可欠だ。集められるものは全部集めておく。古い媒体で今後ひらけなくなりそうなものがあるのなら、今のうちにコンバート（データ形式の変換）していくのがデジタル化の基本。コンバートを繰り返しながら生き延びさせる方法を考えていく。その過程で必ず標準フォーマットに変えること。本文は Word データとのことだが、Word は世界標準ではないのでダメ。最終的にプレーンテキストに書き出して残していけばおそらく 100 年後、200 年後もひらくことができる。今まで集めた資料をきちんとまとめる、いま既に古くなっているものはコンバートして生かす方法を考える。編集とはそういうものだと思う。

事務局：標準フォーマットについて色々教えていただきたい。今回、ばらつきのある映像資料を平成編として 1 枚の DVD にまとめ上げるのは困難だと判断した。ただデータとして重要ではある。映像の形式を変えて残す方法は考えていく。

委員：バラバラの映像を一つにまとめるのは無理だろう。平成の象徴的な映像だけでも少しまとめられないか。非常に短い尺で。

委員：市史に PDF データを付けたり、ウェブからダウンロードできるようにしたりするのか。

事務局：市史のデジタルアーカイブは市史刊行後の事業となる。今後、予算を取っていく。

委員：印刷製本業者から PDF データをもらうようにすれば、そのデータを軽くしてウェブ公開等に活用できる。PDF 納品は仕様に含んでおくといい。

事務局：PDF 納品は仕様を含めている。

委員：そうであれば、標準テキストに書き出すのも含めておけばいい。

事務局：最低限でも PDF を分割して見られるようにはしたいが、『資料編』に付録として付けることは想定していない。

委員長：『通史編』に付けるかどうかは今後議論する。特に民俗班には映像資料を付けたいという要望があったが DVD の容量が足りない。事務局も DVD に取り組む余力がない。

事務局：ご意見を参考にさせていただき、平成期を象徴する映像をコンパクトにまとめられるかどうか検討する。

委員長：市史編さんだけでなく、公文書、図書館資料をどうデジタル化して公開していくかという今後の課題だと思う。

（2）資料編の頒布について

委員長：販売価格が 5,000 円となると少し高い印象ではある。将来的に市史をウェブで無料公開すると、「私は 5,000 円を買ったのに、あれは何だったのか」という苦情もあり得るか。他の自治体で聞いたことがある。

4. その他

- ・次回は 11 月中旬の予定。詳細は改めて連絡する。